



Say hello to our readers!

ほんさんの手紙 7月号

LETTERS from HON-SAN vol.25 JULY, 2017

25 ウソをつくのは悪いこと？

前になんかのTVで、

「私は子どものウソだけは絶対に許さないんです。どんなウソでも、それは人を騙す始まりだから・・・」

って力説してるママタレントさんがいました。そういうの聞くと、「なんで子どもはウソをついちゃいけないの？」ってすごく不思議に思うんですよね。

僕も娘が4人いるのでよく絵本を読み聞かせたりしますが、動物や植物が喋ったり、魔法で馬車が出てきたり、絨毯で空を飛べたり、全部ウソの塊じゃないですか。

母親がニンジン嫌いな子どものためにすり潰してハンバーグに入れて食べさせる。

これは「騙す」とは言わなんでしょうか？

そこに夢があれば、愛があれば、
「ウソ」は「アリ」だ。

大人はそうやって自分に「正義」があればウソをついてもいいけど、子どもはまだその「正義」の定義が判断できないからついちゃいけない。そういう論理なんでしょうか？

未就学児の子どもがつくウソは、「ウソ」と言うより思ったことをクチにしてるだけということが多いように思います。

ウチの三女（5歳）に「手、洗った？」と聞くと、だいたいドロドロの手で「洗った！」と言います。

ここで「絶対ウソやろ！ドロドロやん！」と叱ると、「洗ったもん！！」とふくれます。でも、「まだ汚れてるみたいやからもう1回洗ったら？」と言うと、「わかったー！」

と素直に洗いに行きます（笑）

これが次女（小3）ぐらいになると、「手、洗った？」に対して、

「さっき洗ったばっかりやからいいねん」と、よくわからないウソをつくようになります（何回かに1回は本当なのかかもしれません）。



長女（小6）になると、

「この前、手を洗い過ぎるのは常在菌が減るからよくないってTVで言ってたで？」と、今まで得た知識の中から都合の良い部分だけを引用してくるという高等テクニック（ウソではないか？）を使い始めます。

この3人のウソ（？）のレベルを分析すると、明らかに脳年齢が上がっていくと共に、

- 「親にどう話せば納得してくれるか」と考える思考力
- 過去の記憶から「これ使えるんじゃないかな？」という知識を手繕ってくる記憶力
- 現状に合わせて矛盾のないストーリー性を生み出す構成力

などが育っているのがわかります。

ある有名な作家さんが、

「推理小説やサスペンスものの脚本をうまく書くような奴は、昔からウソがめちゃくちゃ上手かつた奴だ」

と言っているのを聞いたことがあります。

裏につづく→

単純に「ウソは泥棒の始まり」だから悪い事って片付けるんじゃなくて、「上手にウソをつけることも1つの能力」であり、「子どもの成長」って考えることはできませんかね?

だとしたら、「子どもにウソをついて欲しくない」という親の想いは、もしかすると「まだまだ『なにが夢でなにが愛で、なにが正義か』なんてわからぬままの、バカな子でいて欲しい」っていう「無意識の反応」なのかもかもしれません。

確かに、「自分を守るために、自己防衛でつくウソ」や、「人のせいにしたり、何かのせいにしたりするようなウソ」なら、叱らないまでも「どういう考え方でそのウソをついたのか」については問い合わせできないといけないかもかもしれません。

でもその場合はどちらかと言うと、「ウソをついてでも、誰のせいにしてでも自分を守らないと恐ろしい目に合う」と子どもが思ってしまってる環境の方に問題があるように思います。

その場合は「ウソを叱る」よりも、親が積極的に「本当のことを言っても受け入れもらえる」という信頼関係を再構築する必要があるかもしれませんよね。

子どもが学ぶべきは、「ウソをつくのは悪い事」って単純なことじゃなく、ちゃんとウソをついた後のリスクを知ること。

「ウソは方便だけど、そのウソによって今後本当のことを言つても『またウソかかもしれない』と思われる・・・生きていく上でとても大切な『信頼』を失うかもしない」というリスク。

「そのウソによって嫌な気持ちになったり恥をかいたりした人がいた場合、そのツケはいつか自分に返ってくるかもしない」というリスク。

「ウソで誤魔化すことが得意になり過ぎると、現実世界で地道な努力をすることがバカらくなってしまうかもしない」などのリスクについて。

5歳の三女にこんな話は難しいかもしないけど、「オオカミ少年」の絵本を何度も読み聞かせることはできる。

結局、「教える」より「気付ける環境づくり」。「押し付けの価値観」じゃなくて「考える力を育む」。

なんて、ウソで苦労してきた父親だからこそ考えてしまうのかかもしれません(^^;)



社内報インタビューにご協力いただけのお客様募集!

弊社(株)Snailtrackには「あしあと」という社内の会報誌があり、先月から新コーナーとして「(株)Snailtrack 応援団!」という企画が始まっています。内容は(株)Snailtrackの取引先やスタッフ、お客様、地域仲間など様々な関りを持つ皆さまの中から、「(株)Snailtrackを応援していただいている方」をインタビューし、社内報に掲載するという企画です。もしこの「ほんさんの手紙」を読んで下さっているお客様の中から、「応援しててるよ! インタビューされてもいいよ!」という方は、下記の電話番号かメールアドレスにご連絡ください! ご協力いただいた方には、弊社ハウスクリーニングチケット(エアコン洗浄1台分)を差し上げます! ※複数のお客様からお申し出があった場合は、僭越ながら抽選とさせていただきます。※インタビューと一緒にお客様のお写真が載ります。社内報はブログなどにも紹介される場合があります。予めご了承ください。

感じがいい!

配達が丁寧!

よく気がつく!

タレこみ情報お待ちしております!

ほんさんメールアドレス

honkawa@tsumurin.net

「ほんさんの手紙」のご感想や要望、また新聞に関するクレームやアドバイス、なんでもお気軽にメッセージください!
「朝刊の配達時間が遅いぞ!コノヤロー!」でも構いません。

※匿名のメッセージの場合のみ、対応が出来かねる場合がございます。予めご了承ください。

ASA 淡路

〒533-0032
東淀川区淡路 2-1-18
TEL 0120-003-249
FAX 06-6329-0090

ASA 豊里

〒533-0013
東淀川区豊里 4-15-4
TEL 0120-374-341
FAX 06-6329-0378

スタッフブログ「チーム淡路!」で検索!
<http://ameblo.jp/team-awaji/>

ほんさんブログ「ほんさん」で検索!
<http://ameblo.jp/asaminaminoda/>

FB ページ「Snailtrack」で検索!
<https://www.facebook.com/tsumurin?ref=hl>